

ぎふ感染症かわら版

平成 28 年 6 月 24 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



腸管出血性大腸菌感染症（^O157 など）に注意しましょう！

O157 などの腸管出血性大腸菌感染症は、気温の高い 6～10 月に感染する人が増えます。県内でも、6 月に入り、感染する人が増えてきていますので注意しましょう。

どんな病気？

腸管出血性大腸菌は、ベロ毒素という毒素をつくる大腸菌で、人に腹痛や激しい下痢、血便などをおこします。

ようけつせいにようどくししょうこうぐん
溶血性尿毒症症候群（HUS）という合併症をおこすと、死亡することもあります。

この菌は、牛などの家畜や人の便の中にいて、井戸水や食べ物、手指などを介して人に感染します。

感染力が強いので、わずかな数の菌でも感染します

お肉はよく焼いて食べましょう！

処理の工程で、お肉には腸管出血性大腸菌が付くこともあります。

また、牛のレバーにも、この菌がいることがあります。

熱には弱い菌なので、お肉やレバーはしっかり火を通して食べれば安全です。



保育所などでは集団感染にも注意！

感染した人の便から、手指などを介して周りの人に感染することがあります。

特に、保育所や幼稚園など、小さいお子さんの集団生活の場では

感染が広がりやすく、集団感染をおこすことがあります。

岐阜県でも、2013 年に幼稚園で集団感染がおきています。

日ごろから
感染予防を心がけて



- トイレの後、おむつ交換の後、食事の前などはしっかり手洗い
- 交換後のおむつなどはきちんと処理しましょう



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

